

南伊勢町賞



現代日本社会学部現代日本社会学科 2年
高山 航

<p>定住自立に関する課題</p>	<p>南伊勢町の定住自立の課題として、少子高齢化と少子高齢化からなる人口減少による地域での交流の減少である。少子高齢化の根拠として※1『RESAS』というサイトによる1980年~2045年までの人口推移を調べた結果、年少人口、生産年齢人口ともに減少しており、老年人口は増加しているからである。そこから、人口減少によるコミュニティ等の医療、子育て、といったものが住民に必要な機能であると考えます。</p>
<p>その課題解決に利用できる資源</p>	<p>上記の課題解決のために利用できる資源として重要と考えるものが大きく分けて3つある。まず一つ目として、伊勢志摩定住自立圏の連携ができるということ。次に豊かな自然や文化があるということ。具体的には、自然や日本有数のリアス式海岸、太平洋に向かって開けた町である点、棚橋竈の塩づくり等である。三つ目が皇學館大学との連携であるということ。学生によるボランティアやCLL活動等である。</p>
<p>あなたの考える解決策</p>	<p>上記の課題解決のために必要と考えるのは、子どもに関しての環境づくりの対策である。理由としては少子高齢化の根本である子どもの減少であり、子育ての行きやすい環境が必要であると考え。この環境があることで、人口流出が抑えることができ、移住したい理由の一つにもなるでしょう。この根拠として※2『「都市部から農山漁村地域への移住者を増やすために必要だと思う支援等」という総務省の調査』についての10・20代が「子育て環境」を挙げた回答が最も多いという調査結果である。このことから私は若い世代に移住してもらおうという地域の若者の減少対策として、少子高齢化対策となることから子育て環境は重要と考える。次に南伊勢町の資源の活用法である。はじめに伊勢志摩定住自立圏の連携についてである。まず度会町との連携が重要と考える。度会町では子育てに力を入れており、子育て世代包括支援センターや母子保健事業、こんにちは赤ちゃん訪問がある。これらの知識、手法等にたけている地域からの援助、手法を学ぶことが課題解決に必要と考える。次に豊かな自然についてである。上記の資源に自然体験学習や文化体験を行い、体験してもらった地元の子供たちにその良さのPR活動を協力してもらおうが良いと考える。実際体験した人の意見を活かしたパンフレット作りを課題解決として提案する。これは、参加した子ども主体のパンフレットづくりで内容が子ども主体で</p>

	<p>あり、それを形にし、広めることを他県や他地域の活動に来る学生との協力などを行うことが良いと考える。この考えの利点としては、地元に住み生活する子どもの率直な意見を伝えることができる点である。更には宣伝する上での費用が他県、他地域からの参加者に協力してもらうことで費用を抑えることができる点である。以上のように、自然の豊かな地域での子育ての素晴らしさを伝えていく必要があり、体験という教育の重要性も考える。体験学習については※3『文部科学省』によると、社会性や共に生きる力の育成、豊かな人間性や価値観の形成につながる等のメリットがある。この解決策により、若者や子どもたちが地域に深く関わり、地域に住む方も元気になり、地域活性化につながると考える。よって、子どもに関しての環境づくりの課題解決および定住自立に関する考えは以上である。</p>
<p>参考書籍等</p>	<p>※1 『RESAS』 :https://resas.go.jp/#/24/24461</p> <p>※2 出典:総務省統計ホームページ「過疎地域への移住者に対するアンケート調査」 https://www.soumu.go.jp/main_content/000529976.pdf</p> <p>※3 出典:文部科学省ホームページ「体験学習の教育学的意義」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/04121502/055/003.htm</p>